みどりのきずな

平成26年1月1日 発行　第22号

【緑区地域福祉計画基本理念】

『地域住民のきずなを深め、みんなが手を結び合い、住みよいまちづくりを推進する』

―明るい社会を築いてきた高齢者のために―

―未来を築く子どもたちのために―

―障害者（児）が希望を持って地域に生き、働けるために―

編集：緑区地域福祉計画推進協議会広報部会
発行：緑区地域福祉計画推進協議会事務局
（緑保健福祉センター　高齢障害支援課内）
千葉市緑区鎌取町226番地1
TEL:043（292）8142　FAX:043（292）8276

温もりが伝わる握手

委員長　岡本　博幸

平成25年11月5日（火）午後、小谷小学校（宮元純子校長）5年2組の36人の児童と誉田地区のときわ園の高齢者4人との交流会が開かれました。

この行事は緑区地域福祉計画推進協議会が推進している「児童・生徒と施設の高齢者との交流」の行事の1つです。平成23年度この小委員会が発足以来いまも続いている活動です。

活動している学校は、千葉市立土気中、泉谷中、小谷小。施設は、けやき園、ときわ園、ほんだくらぶ、千寿苑、グリーンユーワの各施設です。各校は特徴を生かした活動を行っています。「お祝いの手紙、歌のDVD、寄せ書き、手紙の交流、ビデオレター、合唱祭・6年生を送る会の招待、コミコン祭りの参加」等々がありました。手紙は大変喜ばれ、次はいつ来るのという声が聞かれるほど充実してきました。小谷小の交流活動はその1つです。初めに歓迎の言葉で会が始まりました。次にときわ園から雑巾67枚が児童に渡されました。

これは児童が集めた使い古しの手拭をときわ園に送り、高齢者の方々が一針一針縫ったものです。老いても針を持つことができ、楽しい日々との感想がありました。その後、ときわ園の牧野はまえさんからお礼の言葉「皆さんこんにちは、夏休みの頃たくさんのお手紙ありがとう。暑いから体を大切にしてくださいという優しいお手紙を皆で読ませていただきました。大変感動しました。私は大正10年生まれでもうすぐ93歳です。私も小学生の頃がありました。かけっこの選手だったんですよ。皆さんの年に満州事変、日中戦争、第2次世界大戦となり戦争が続きました。兄さんや友達はほとんど兵隊にいきました。同級生男子の3分の1は戦争で亡くなりました。日本の都市や千葉市も焼け野原になりました。長崎と広島に原子爆弾が落とされ戦争が終わりました。今は戦争がありません、ありがたいことです。平和を大事にして勉強、スポーツに頑張ってください。今日は老人の心も華やぐ嬉しい一日となることと思います。（要旨）」と述べられました。凛とした言葉で一言一言はっきりと、お話されました。お伝えしたかった平和のありがたさを子ども達は心の中に受け止めてくれたと思います。

続いてビデオによるカルタ紹介、けん玉遊び、ふるさとの合唱があり、終わりの言葉を述べ会は終了しました。

感動的なのはこの後の握手です。全員の児童が高齢者と握手を交わしていました。どんな思いや気持ちを込めて握手したのだろう。99歳のしわくちゃな手から何を感じとったのだろう。握手しながら涙を流している方もいました。最初で最後の握手、一期一会の大切な機会でした。この握手から何を学び・何かを考えることができたら、行事の目的は達成したと思っています。最後に校長先生に感想をいただきました。

宮元純子校長先生

「ときわ園の方々からの子ども達1人1人への手紙の返事に書かれていた体験談やアドバイス、自分たちの7倍も8倍も長く生きてこられたお年寄りの手のぬくもりを通して、生きるための知恵や生きることの素晴らしさを感じてくれたのではと思います。今回の学習がきっかとなり、自主的にときわ園と交流できる子どもがいてくれると嬉しく思います。」

誉田地区

◆誉田町民大運動会

昨年10月6日に誉田地区スポーツ振興会主催で第51回町民運動会が誉田小学校で開催されました。この運動会は昭和38年、東京オリンピックの前年に5町内会が対抗戦で開催されたのが第1回大会でした。それ以来51回大会全てが自治会対抗という形で行われてきました。今回も10町内、自治会が個人競技、団体競技で熱戦を繰り広げました。特に町内対抗リレー「20代―40代男女8名」、町内対抗綱引き「成人男女20名ずつ40名」では予選から熱が入り盛り上がりました。その結果、誉田3丁目自治会がみごと総合優勝を果たしました。

以下、準優勝奈木台町内会、3位誉田2丁目町内会。綱引き優勝は誉田3丁目自治会、町内対抗リレー優勝は誉田2丁目という結果になりました。

誉田スポーツ振興会の目的である町民相互の親睦をはかり地域住民の連帯感と絆、体力の保持、増強に大いに役割を果しています。

報知新聞　地域限定号外

◆連協研修旅行

11月24日朝、12地区連協の自治会、各地域の役員、そして大野緑区長の代理として板敷くらし安心室長を含め41名を乗せたバスが小春日和の中を鬼怒川に向け研修旅行に行きました。世界一の青銅製立像の「牛久大仏」や水戸の「お菓子博物館」を見学し鬼怒川のホテルに宿泊しました。しかしホテルは混んでいて男風呂はイモ洗い状態。食事の前に全員の写真をパチリ。

翌日は「東武ワールドスクウェア」。ここは世界の有名な建物や遺跡が102点25分の1の縮尺で再現、一番新しい東京スカイツリーが入ってすぐにあります。建設費が2億円と聞いて一同「オーッ」とビックリ。事故もなく各々家庭に到着。

土気地区

◆昭和の森ウォークラリー

土気地区では毎年11月23日に全住民を対象とした事業「昭和の森ウォークラリー」を実施しています。ねらいは「つながり」の構築と地区部会活動への理解を図ることにあります。

各ポイントでゲームに興じたり、大声で思いの丈を叫び、その音量を機器で測定したりする一方、地区の自慢や状況を問うクイズに挑戦して認識を新たにしながらグループ内の交流を深めていきます。

更に、全コースで課題である他グループへの挨拶や声掛けに緊張しながらも取り組むことにより交流の拡大を図っていきます。ゴール後はグランドゴルフを楽しみ、美味しい豚汁を味わえます。

足早に、悠々と、乳母車を押しながら等々、子どもから高齢者までが思い思いのスタイルで取り組み、多彩な活動で喜び、悔しさ、ためらいなどを味わいながら楽しい一日を過ごす中で多様な交流を生み出す場となっております

開会式　大勢の参加者

第２チェックポイント　パターゴルフ

GOAL！！順位発表

ハーティちゃんと

記念撮影

椎名地区

◆椎名小学校しいのみ祭
―地域の方々から学ぼう―

秋は豊穣の時です。野山の果実は一斉に種子を実らせ、それを小鳥や小動物に運んでもらうのでしょう。椎の木は地面に沢山の実を落とします。子孫の繁栄を願っているのかもしれません。

実は子供たちのおいしい、おやつでもありました。歯でプツンと割ってでた卵円形の白い果実は甘く何とも言えない味わいでした。焙烙で炒ったものは更においしく、落花生よりおいしいものでした。

しいのみ祭は、地域の方々との交流の場であり、また児童の成長の節目の行事なのです。1・2年おはじき、ケン玉、お手玉、あやとり、独楽回し、竹馬遊び。3年竹とんぼ作り、ことり笛作り、4年絵手紙作り、5年注連縄作り、6年陶芸作りが行われました。柔らかい冬日がさす穏やかな11月16日(土)遊び・作りを通して児童は、多くのことを学んだことと思います。

椎の木は、実は食用、材は建築、樹皮は染料、樹木は椎茸栽培の原木となり、活用の多い木です。

しいのみ祭は児童が椎の木の様、多面に渡り生かされる大木になる様に願っての祭りです。それを側面から地域の方々が支援しているのです。

ふれあいを通して、児童の心の中に学びの種が育ってくれることを願って行事を終えました。

子供達の感想

コマ回しを初めてやりました。紐を巻くのも難しかったけど、回すのはもっと難しかったです。投げた時に紐にひっかかってしまったり、すぐに倒れてしまったり、とても難しかったです。友達と一緒に回したり、巻いたりしました。先生からアドバイスをもらったりして、だんだんうまくなってきたけどなかなか回せませんでした。楽しかったです。

1年　ふくい　ちはな

小刀で竹を削る時、硬くてなかなか削れませんでした。でも、秋葉先生に教えてもらったら、うまく削れました。早速飛ばしてみると、「ブーン」と勢いよく回転して飛んだのでわくわくしました。先生のおかげで楽しい竹とんぼ作りになりました。

3年　吉川　凛

しめ縄は買うもので本当に上手に作れるのか心配していました。まず大きな縄を丸くして作ったけど、なかなか作れなかった。飾りの3本は自分でやりました。できるようになって気持ちが入れられたようで嬉しかったです。お正月は自分が作ったお飾りを家に飾って来年も今年以上に良い年にしたいです。

5年　菅原　優太

おゆみ野地区

◆上総掘り井戸「わかばの泉」が完成しました

上総掘りは、千葉県・上総地域の伝統的な技術で機械を使わずに人間の力だけで井戸を掘る工法で、国の重要無形民俗文化財となっているものです。

おゆみ野南小学校敷地内で2月から作業を行っていました上総掘り井戸は、保護者、子どもたち、地域、学校の多くの協力者（延べ人数・約千名）により、8か月の期間をかけて完成しました。井戸の名前「わかばの泉」は、子どもたちから公募し、その中から投票で選んでもらったものです。

この井戸掘りの作業を通して、子どもたちに「多くの人が協力し合うことの大切さ」と「水は自然の恵みであること」を感じてもらうことが出来ました。また、学校と地域の方々との交流を図ることができました。

今後、この井戸が地域交流の場となり、「地域の絆」として、また地域防災力の向上に役立つ「防災井戸」として、地域の財産となることを願っています。

土曜日・日曜日は、地域の皆さんが自由に使うことができますので、是非活用してください。

おゆみ野南小の井戸

◆おゆみ野文化祭・こみこん開催

素晴らしい秋晴れの11月23日24日に18回目の文化祭が開催されました。地域住民と、子どもたちが一体となって盛り上げた文化祭となり感慨深い2日間でした。

地域で担う文化祭を多くの方をまき込んで、企画から運営までをふれ合いながら作りあげることができたなら、より素晴らしい文化祭となると思います。

開会式での大地讃頌

小委員会コーナー

◆見守りネットワーク検討委員会

高齢者や障害者などを地域でいかに見守っていくか、またどのようなネットワークが必要かを検討する小委員会です。

12月21日に地域で行っている見守り活動に関する講演会を鎌取コミュニティセンターで開催しました。参加者は、町内自治会関係者と民生委員児童委員でした。発表事例は2つあり、1つは緑区の古市場団地お元気確認委員会、もう1つは中央区の登戸3丁目福祉見守り会です。2つの事例とも地域住民がボランティアで実施しており、住民アンケートを取るなどして対象者の要望に沿った見守り活動を展開しています。当日の講演会の資料を欲しい方は事務局までご連絡ください。また地域で見守り活動を始めたい方々のご相談にも応じます。

（事務局）
千葉市社会福祉協議会（社協）
電話　043（292）8185

委員の一言コーナー

千葉市身体障害者連合会
廣田　健次

2020年の東京オリンピック、ならびにパラリンピック開催が決まってから4ヶ月が経ちました。

社会に元気を与えた事は、間違い無いでしょう。日本国民の1人として、うれしい事ではあります。しかし、障害者の1人としては、心配な事もあります。オリンピックは盛り上がるでしょう。でも、パラリンピックはどうでしょうか。その心配を強くしたのは、昨年の出来事がきっかけでした。

ロンドンオリンピックが終わり、8月20日にパレードが行われました。メダリストが勢ぞろいし、平日だったにもかかわらず銀座に50万の人が集まったと言われます。でも、その中に、パラリンピックの関係者は参加していません。

ちなみに、パラリンピックの開会式が行われたのは、8月29日でした。他方、ロンドンではパラリンピックが終わった後にメダリストのパレードが行われたのです。

2020年に東京で、去年のロンドンのようにオリンピックとパラリンピックが同等に扱われる事になるでしょうか。

パラリンピック、陸上や水泳など、オリンピックと同じ競技も行われますがその記録レベルは、オリンピックのそれとは大きな差があります。しかしパラリンピックには、競技レベルではあらわせない魅力があると思います。

リハビリと言う時限を越えて、競技にひたむきに打ち込む選手の姿はきっと日本人の心に、何かを与えてくれると信じます。特に、沢山の子供達にぜひ観ていただきたい。

パラリンピック、これまではNHKでしか放送された事がありません。それも、福祉番組枠でのものでスポーツとしては扱われませんでした。民間放送では、ニュースの中でしか、その様子が放映されていません。このような状況が、少しずつでも改善され、オリンピックでもパラリンピックでも、日本中が盛り上がっている様子が、世界に発信される事を願いながら、2020年を楽しみにしたいと思います。

社協情報コーナー

貸出しています！

無料

対象：要介護以外の方
※要介護の方は介護保険が優先
期間：2ヶ月（半年まで延長可）
※申込時に印鑑が必要

ゆるキャラ着ぐるみ
対象：どなたでも
期間：1日単位から

社会福祉協議会　電話：043（292）8185

編集後記

昭和の森での「緑区ふるさとまつり」土気あすみが丘プラザでの「プラザまつり」と、大きな行事が続いた土気地区。旧住民と新住民との交流がなお一層深まって欲しいと願います。（KH）